

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第16号
2023年11月15日
編集・文責 吉成正士

感動の時間でした。涙がこぼれそうになるような時間でした。一人一人の頑張りが、私との間にある空気を震わせ、伝わってくるようでした。切ない思いが、感動の喜びが、胸にしみこんでくるような時間でした。私が思い描いていた人権学習の時間に、ようやく一歩たどり着いたような気がします。これが本当の人権学習だと、言っていると思います。自分を語ること、人を知ること、互いの思いを知り合うこと、人権の尊重や平和の実現は、そこからしか始まりません。いろんなことを知ること、難しいことを学ぶことも大切ですが、そういったベースがあって初めて、それらは実現していくのだと思います。人権学習はその積み重ねなのだと思います。

11月10日、人権学習授業参観として、たくさんの保護者の方に来ていただき、皆さんが日ごろしている人権学習を見ていただきました。今回は、3つの質問を用意しました。

1. 学年全体学習で今まで発表したことがある人は、発表したときどんな気持ちでしたか。
2. これまでの人権・平和学習でどんな学びがありましたか。印象に残っていること、自分が感じたことを、「発表する」という行動の大切さを踏まえて伝え合いましょう。
3. 人権の尊重や平和の実現は、互いを知り合い、わかり合い、認め合うことから始まります。私たちもそうであるように、あらためて自分自身を見つめなおし、これまで人に伝えられていない、悔しかったこと、悲しかったこと、人とつながれてうれしかったこと、今ある悩みについて語っていきましょう。

これらの質問に沿って授業は展開されていきましたが、何ととっても今回は、人権委員会からの提案が、この授業を大きく変えてくれました。そんな授業の様子を、皆さんの感想から見ていきたいと思います。



この学年がすごく素敵

■今回の人権学習で、少し自分に自信が持てるようになった

り、自分を語ることができました。発表する中で、学年全体の方を見ると、すべての人があたたかい視線を送ってくれました。そのとき、私はうれしくて、少し泣きそうになりました。そして、この学年が、すごく素敵だなと思いました。今日は初めての発表者がたくさんいて、みんなが成長できたのではないかと思います。人権委員の人たちのアイデアは、発表者の気持ちを考えたものでした。一人だと不安だし、怖い。でも仲間がいたら、応援してくれたら、みんなが勇気が出るのだと改めて感じました。様々な人がいることで、人権学習が成り立つのだと私は思います。これからの人権・平和学習でも、自分を語ることを恐れず、自分を伝えていこうと思います。そして、「発表をする」という雰囲気づくりも大切だなと思いました。今回の人権学習に参加できて、本当に良かったです！

4組MC

人権学習は、本当に様々な人がいて成立します。偏った意見ばかりではバランスを欠いてしまいます。しかしそんな学習や体験も、なかなかなかったり、大人になればなおさらなかったりします。むしろ大人こそ必要だったりします。無意識でいれば、皆さんもそうになっていくでしょう。そうならないためには、自ら望んで、そういう場を求めて一歩を踏み出せる自分かどうか問われています。

今回、いいイメージで学習を終えた人も多かったと思います。そんなイメージが、次への一歩につながります。戦争や平和、差別や人権など、課題は何も解決していないのですから、今の自分に満足することなく、歩み続けていくことです。共に頑張りましょう。

班のみんなが一緒に立ってくれたから

■僕は今回の人権学習は発表する人が多く、とても良い授業だったと思います。僕は今回の人権学習で初めて発表しましたが、発表する前はすごく緊張していて、発表するのが怖かったけど、発表したあとはスッキリしてとても気持ちが良かったです。大勢の前という僕の苦手な場所を克服できたのは、吉成先生や発表しやすい雰囲気をつくってくれたみんなのおかげだと思います。そして、班のみんなが一緒に立ってくれるというのも、発表しやすかったです。このようにみんなが協力して意見を出し合い違いを認めて、お互いの仲を深めていくことは、とても重要なことだと思います。次回の人権学習も、勇気を出して手を挙げてみようかなと思います。

2組SS

そもそもクラス横割りの班をつくるというのも、提案からはじまりました。それをさらに人権委員のみんなが改良してくれたのです。「上手いかわからないからやめる」という選択肢もあるのかもしれませんが、「Try and error」。試して、改善して。また試して、改善して。何事もその繰り返しではないかと思います。本質は見失ってははいけません。でも、自分たちに合ったやり方を見つけていくその創意工夫、主体性が、皆さん自身を

成長させてくれるのだと思います。

みんなと一緒に立ってくれるのも、心強いですよね。一人ボツンと立つのは心細いものです。それでもいつか、自分一人で立たねばならないときがやってくるのかもしれない。そんなときのためにも、しっかり自分を鍛えていきましょう。また、そうなれるまで、そばに寄り添える自分でいましょう。人はひとりじゃない。



目で見て聞くことを今まで以上に意識

■僕は今回の人権学習をして、発表をすることの大切さを改めて感じました。いつもと違う発表の仕方です。全員がその場で立つということができていたと思います。僕は発表をすることはできなかったけど、初めて立って、みんなのあたたかい視線が向けられていて、これなら次は発表できるかもしれないと思いました。それに、発表するということは、自分の思いを相手に伝えることができ、お互いの知らないところを知るきっかけになると僕は思います。先ほどのあたたかい視線が向けられたということについて、みんなが僕たちの班に向けたように、聞き手の方も大切なのだとあらためて思いました。だから僕はこれから、発表するということだけではなく、目を見て聞くということも今まで以上に意識して人権学習に取り組んでいこうと思います。

4組UT

相手の立場になって初めて気づかされることがあります。本来であれば、相手の立場に立って考えると分りそうなことですが、それでも考えが及ばずに、その立場になって初めて分かることもあるものです。その立場になって気づいたことを、これからの自分に生かす。それも大きな気づきと学びです。

今、自分はどうしたらいいのか

■今回の人権学習は、今までで一番良かったのではないかと思います。発表する前は「相手にちゃんと伝わるのか不安だった」「みんなにどう見られてるのかな」などの意見を耳にしましたが、でも「言ったらすっきりする」「うれしい」など、発表すると自信がついたり、人と関わることが分かりました。自分の思っていること知ってもらい、ありのままの自分を知ってもらえるきっかけにもなるんだなと思いました。川上さんが言ってくれた、「違う意見があると不安になる。でもそれが人と人とかかわりを持つきっかけになる」まさにそうだと思います。人権学習は、「自分の考え

や知っていること、知らないことを教え合う場”であり、その意見をふまえて、今、自分がどうしたらいいのかを人と話し合い関われると思いました。発表している人を見るまなざしがあれば、「言える空気が変わる」=発表する人が増える。私はこれからこのことをふまえて、次の人権学習につなげようと思いました。

6組KJ

周りが一生懸命に考えてたら、いつの間にか自分も一緒になって考えてますよね。聞く→考える→また聞く→また考える、そのなかには、共感できることもあるでしょう。もしそれらすべてがなければ…自分の中で考えるしかありません。自分で考えること自体はよいことですが、外からの刺激がないと、それが正しいのかどうか分かりません。常に自分を確認する意味でも、外部とつながることは必要であり、大切なことです。その習慣を、しっかり今つけておいてください。



「一緒に発表しよう！」

■まず最初に、発表することができたのが一番うれしいなと思っています。親が来ていたことや発表の体制がいつもと違うかったからかもしれません。同じグループの子が私の書いた文章を聞いて、「良かった！」と言ってくれて、「一緒に発表しよう」と言ってくれた子もいたので、勇気が出たし、この文章でいいかなと不安になることもなかったです。友達がいることは、あと一歩のところまで来ているときに、勇気や自信をもらえるんだなと思いました。初めて発表したけど、友達がいたからなのか、あまり、むしろないと言ってもいいほど緊張しませんでした。発表するつもりはなかったけど、発表して自分の意見を言えて、皆に自分を知ってもらえたことができたと思うと、また次も発表してみようかなと思いました。自分の気持ちに正解はないのだから、思ったことを進んで発表するべきだと、今回の人権学習で痛感しました。

2組OS

あと一歩のところ、ちょっと背中を押してくれる仲間存在は本当にありがたいですね。「一緒に発表しよう！」いい言葉です。そんな関係性を、みんながいるんなところに、たくさん作っていけるといいです。

この学習に正解はありません。何が正しいかは、自分の中にしかありません。その、「何が答えか分からない問い」を、みんなで考え合うこの時間が、大切なのだと思います。だからどうしても、みんなの存在が必要なのです。

(第17号につづく)